

資料館の展示品紹介① 洗濯板



(写真 洗濯板とたらい)

断面が三角形の波状の刻み目を多数付けた板で、その凹凸で衣類の汚れを落とします。1797 年にヨーロッパで発明されたとも、中国が発祥ともいいます。明治時代になって日本に伝わり、広く使われるようになったのは大正時代からといえます。それ以前は手洗い、手もみ、足もみで洗濯していましたが、洗濯板が使われるようになってからは洗濯の能率が格段に進みました。多くの場合、たらいと併用されます。

1950 年代後半（昭和 30 年代）ごろから洗濯機が、テレビ・冷蔵庫とともに家庭の「三種の神器」と言われて普及した後、洗濯板はあまり使われなくなりました。資料館で展示の洗濯板はタテ 54.5 cm、ヨコ 23.5 cm、厚さ 1.7 cm で、睦沢町内で使われていました。ふだん資料館 1 階展示室で展示されています。ぜひ、実物を見に来てください。

©無断転載等禁止